

大原社会問題研究所五十年史

III 本格的事業の展開から東京移転まで〔一九二三～三六年〕

大原・高野両氏会談

大原・高野会談は、春から夏にかけて両氏の発病その他のためのびのびになっていたが、一〇月三〇日にいたり実現した。高野氏は存廃問題にはふれず、初めに研究所の事業拡充、人員の充実などにより財政状態を改善し、自立への方途を考えねばならぬ、とのべたが、大原氏はこれに対し、昨年五月ころより倉紡の事業成績不振のため財政状態が悪く、事業代表者の決議や側近者の意見で大原研究所への出資をつづけ難い事情にあること、それで六ヵ月以降より大原家は研究所への出資を絶ち、それ以後また事情に変更があれば会談したいと言明した。

ここにおいて、両者の見解は全くいちがい、意見の一致に到達することはできないことがわかった。高野氏は「これは余の辞職強要ととるほかはない」と反論し、ついで大原氏の周囲に人なきことを直言したのち、問題はしばらくこのまま放置する外ないとのべて会談を打切った*。

高野所長はこの会見の様様を大阪、東京の各委員に伝え、一一月二日久留間、細川、森戸三氏と協議して、今年度の予算は緊縮方針をとって作成すること、大原氏が出資を停止すれば他に後援者、出資者を求めて所の永続を確保すべきこと、等をきめた。

*大原・高野会談についての詳細は、前掲『高野岩三郎伝』三〇八ページ以下を参照。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)